

科目	陶芸	単位数	2	年次	3	学級	A～E、H 選択者	学科	普通科 国際教養科
----	----	-----	---	----	---	----	--------------	----	--------------

学習の到達目標	陶芸の基本的な学習体験「見る」「つくる」「使う」「知る」体験を通して、生活をより心豊かにするための創造的な表現、鑑賞の能力を伸ばします。
使用教科書 副教材等	「高等学校 工芸 I」 日本文教出版

学期	月	学習項目	学習内容の説明
前	4	オリエンテーション 1 工芸を学ぶ 2 暮らしと工芸 土でつくる(器の鑑賞) 菊練り 電動轆轤による器の制作1	教科書や参考文献などを用いて、「陶芸」で学ぶ内容や技法、その意義を確認します。 陶芸の基本を学びます。家庭の器を意識して見ておいてください。 荒練り・菊練りなど、土を扱う上での基本を学びます。 電動轆轤の使い方を学びます。 作品は茶器を目標に制作します(前期は『湯呑み茶碗』)。
	5		
	6		
	7	窯詰め・素焼き・窯出し 絵付け・施釉・加飾	素焼き済みの作品に絵付けをします。
後	9		
	10	電動轆轤による器の制作2	茶器を目標に制作します(後期は『急須』)。 陶芸の作品の中から何点かを、11月の高校芸術祭に出品します。 電動ろくろをつかってセット物の制作をします。
	11		
	12	窯詰め・本焼き・窯出し	作品の中から何点かを次年度1学期の地区展に出品します。
	1		
2			
3			
評価の観点及び評価の方法	工芸への関心・意欲・態度	1 陶芸の果たす役割に関心を持ち、生活文化を尊重しようとする態度で取り組んでいるか。 2 意欲的・主体的に制作や鑑賞に取り組んでいるか。	
	発想や構想の能力	1 感性を働かせて工芸のよさや美しさを感じ取ることができるか。 2 目的や条件を把握し、工夫して発想を形に表すことができるか	
	創造的な技能	1 構造や制作手順を理解し、計画的な制作ができるか。 2 用具の使用方法や、材料の特質を理解し、創造的な表現に活用することができるか。	
	鑑賞の能力	陶芸作品のよさを味わい、作品に込められた心遣いや工夫を感じ取ったり、自分の意見を持つことができるか。	
	評価方法	前期は毎回の授業に取り組む姿勢(欠席・遅刻などの有無や態度)を50%と、作品の完成度(オリジナル性・美しさを含む)50%をあわせて評価します。 後期は毎回の授業に取り組む姿勢20%と作品の完成度80%をあわせて評価します。 作品は決められた提出期限までに、完成させて提出することが最低条件となります。	
担当教諭から	「物を作ることが好き」「自分で作ったものに囲まれて生活したい」「○○が欲しいけど気に入ったデザインのものがないから自分で作りたい」「工芸 I の陶芸が楽しかった」…選択者それぞれが、いろんな思いを持って授業を受けようとしていることでしょう。 授業で作ったものはすべて使えます。「欲しいと思って 考えて 作って 使って……」で、また新しいことを発想する。心も 頭も 手もすべて使います。 一人一人が世界にひとつしかない最高の作品を作ってください。		